

●京都大学授業概要のページより

[52] いいぞボディーワーク！

投稿者： █████ 99年5月12日17時57分
リンク：

(記事番号#51 へのコメント)

ボディーワーク

・2人ペアをつくって、お互い体をまかせて倒れ合う。

はじめはなかなか怖かったが、相手がしっかり受け止めてくれると分かってからはすごくリラックスできて任せるままに倒れる感覚が気持ちよかった。しかし████くんは重かった。(ごめん僕の力不足です。)

・ブラインドウォーク：2人ペアで、1人はタオルやハンカチで、目隠しをし、もう1人は無言で誘導して歩く(階段など段差のあるところを含む)

目隠しすると、普段私たちがどれほど目に頼っているのかがよく分かった。風のおいや頬にあたる感触、陽の光、木々のざわめき、などどれもよく感じ取ることができて、とても良かった。

来週はどんなことをするのか楽しみだ。

いつも思うのだがこの授業は一時間では少ないなあ。

[84] Re:ボディーワークについて

投稿者： █████ <████@sfc.keio.ac.jp> 99年5月19日0時35分
リンク：

(記事番号#82 へのコメント)

こんにちは、SFCの████です。

(余談ですが、SFCの人は多分「慶應」って言われてもピンと来ない人が多いです。「慶應」って言うと、世間で言ういわゆる「慶應ボーイ」「慶應ガール」とか、他キャンパスのイメージが強いので。)

ボディーワーク、とーとーとーっても楽しそうです。
私もやってみたい！

>

ブラインドウォークについてだけど、あれってペアの一方が完全に無力になって、他方が完全に力を持つっていう、力の構造を究極化したモデルになってると思う。力の構造は暴力性や優しさを同時に生み出し得ると僕は思うんやけど、そういうのを単純化したかたちで子供に体験させたら、人格形成にプラスになるやろなあと思った。

>

私は子どもの時から大体において自分が1番小さいものとして育っただけで、去年、近所のお姉さんの赤ちゃんとホームステイ先の猫という、自分よりも弱い、小さいものに初めて触れました。このコ達に出会って、小さく弱いものが無条件でこんなにも愛しいものなんだってこと知りました。

今まで知らなかった優しさを手に入れた！

この感情は自分より決定的に力のないものに触れないとわからなかったと思う。貴重な体験でした。

。。なんてことをこのコメントを見て思い出しました。

確かに、こういう感情を小さい頃に体験できれば本当にステキですね。人間に”ふくらみ”ができる気がします。

[89] 「身体性という文脈における仮想現実と現実について」

投稿者： ~~XXXXXXXXXX~~ 99年5月20日17時10分

リンク：

前々から考えていた「仮想現実」と「現実」について、「身体性」との関わりから僕の考えを述べる。

「仮想現実」は、「現実」とどのような点で異なるか？
それはむろん、「仮想的」存在であるという点だ。しかしこのとき注意せねばならないのは、「仮想的」ではあるが、同時に「実質的」でもある、ということ。(実質性を欠いたものはフィクションだ。)
身体性との関連から説明するならば、それは「その空間に身を置いていない、身体的リアリティに乏しい」という意味で「仮想的」でありながら、それと同時に「あたかもそこに身を置いているかのようなはたらきをする」という意味では、すぐれて「実質的」なのである。このことは、人間が身体の諸機能を様々な形で外化させてきたことに根を持っているだろう。

そもそも、「現実」というもの自体が、個人によって射程の異なるものだろうと僕は考えている。だからそこに「仮想現実」という別の枠組みをもちこむならばやはりそこにはある程度まとまった共通認識が必要だと思うし、今、説明したような意味から大きく外れるような「仮想現実」という言葉の使い方は、不適切だと僕は考える。

ここまで僕がこの問題にこだわるのは、ボディワークによって身体性の意味を強く意識したと同時に、このHPもまた、そのような文脈の中で捉え直されてもよいのではないかと、思ったからだ。

[102] Re:wie wenn ich dort ware...

投稿者： ~~XXXXXXXXXX~~ 99年5月26日11時2分

リンク：

(記事番号#101へのコメント)

つづきです。

ちょっと共通基盤がなんなのかを考えてみようかな？だらだらと。

たとえば、同じ言語を持つ人同士がコミュニケーションをとる時。言葉の共通領域はありますよね。たとえば、「車」っていったら、「車」がどんなものか共通認識としてありますよね。具体的な「もの」については共通認識があるのかな？でも、感情に関するものとかについての共通認識とかってなんなんだろう？たとえば、「たのしい」とかいう時、きっとみんなのなかでは、「楽しい」っていうことが持つ意味の方向性みたいなのは共通認識としてあるんだろうけど、どのくらい気分が昂揚すると「楽しい」気持ちになるかっていうのはそれぞれちがうわけですね。こういう抽象的な話を進めてもいいんだけど、もっと具体的な問題に落としたいと思います。

自閉症の子と関わっていて思うことは、言葉を発しない子の場合、相手の気持ちを、くみとるのが結構難しいこと。もちろん、相手の表情、行動とかからくみとるわけだけど・・・同じ行為をしていても文脈によって意味が全然違うわけだし。彼らが出す信号をよみ取る(ほんの0.1秒の世界だけど)能力がこちらに求められるわけです。言葉のない(少なくともその子の中には言葉の世界があっても、こっちはその世界のありようがつかみづらいという意味ね)世界をもつ彼らとのコミュニケーションは、体と体のコミュニケーションが中心だけど、ことばという共通基盤がなくなった時、いかに相手とおなじ領域にたてるか(←これは、でも、積極的すぎると子供がまいっちゃうんだよなあ・・・)、相手の気持ちを自然に汲み取れるか、その辺でコミュニケーションの能力が関わってくるんだろうな。(でも、毎日接していると汲み取ろうとする意識とかがもうだるくなってきちゃうこともあるけど・・・)

なんか、長く書いた割にはたいしたことは言ってないんだろうけど、自分の経験に照らして書いてみたつもり。うーん、内容がないっす。

[99] 司会のまねごとをやってみて

投稿者： ~~XXXXXXXXXX~~ <~~XXXXXXXXXX~~@ip.media.kyoto-u.ac.jp> 99年5月25日14時53分

リンク：

(記事番号#92 へのコメント)

事の成り行きと言うのは恐ろしいもので、なぜか前回の授業で司会を務めてしまった~~XXXX~~です。

現実問題、合宿まで残されて時間は後わずか。その中で効率よく計画を立案するためには司会制度は必要だと、僕は思います。

しかし、現実には甘くなかったというか何というか、司会はかなり難しいです。

「SFCに行くかどうか」問題では、最初の多数決で「行かない」方に手を挙げた人数人に意見を聞いた。それは多数派で押し切ることに疑問があったし、何よりなにも意見を聞かない上でこのまま結論を出すことには明らかに抵抗を感じたからです。

ところが、「交通手段」の問題では、自分が「なにを使って行くか」と「まとまって行くか・バラバラで行くか」の2つの論点を整理しきれなくて、少数派の意見を汲み取りきれず、「まとまって行こう」で押し切ってしまった気がします。どうもこの問題では、司会としてうまく立ち回れなかったかもしれません。

皆さんはどう感じたか分かりませんが、周りに流されずうまく立脚できる司会は、どうすればできるのでしょうか。

[101] Re:wie wenn ich dort ware...

投稿者： ~~XXXXXXXXXX~~ 99年5月26日10時31分

リンク：

(記事番号#98 へのコメント)

大山泰宏さんは No.98 「wie wenn ich dort ware...」で書きました。

> ところで、~~君~~君の投稿から考えたのですが、他人への共感というのも、ある意味で「仮想現実」ですよ。私はその人の体験を体験はできないけれども、私のこれまでの体験をもとにして、その人の体験をリアルに感じる・・・たとえば、けがをした人を見て、その痛みを自分も「リアル」に感じる・・・仮想現実ということが成立するためには、やはり何か個々人が共有する共通基盤のようなものを想定せざるをえないのかもしれない。

ちょっと話が脱線しちゃうかもしれないけど、思ったことを書いてみます。

人間関係とか難しく考え出すと、結局相手の気持ちとかを本当に、相手が思ってる程度に自分が感じるなんてできないですよ。ほんとに。でも、それだからって言って、すぐに、相手の気持ちをそのままにくみとることができないからといって相互理解ができないっていつちゃうのはちがいますよね。大山さんがおっしゃるとおり、「共通基盤」のようなものを想定せざるを得ないのかもしれない。

あ、ごめんなさい。授業がはじまっちゃうので、いったんここでやめます。

●慶應義塾大学授業概要ページより

[9] Re:質問

投稿者： ~~XXXXXXXXXX~~ <~~XXXXXXXXXX~~@sfc.keio.ac.jp> 99年5月1日15時54分
リンク：

(記事番号#6へのコメント)

井下研究会の~~XXXXXXXXXX~~です。

田中毎実さんは No.6「質問」で書きました。

> 授業の報告で、思いも掛けないところから話が弾んだとありますが、もう少し詳しく報告していただ
けませんか。

> ざっと読む限りでは、今、京都と慶応のゼミは、それぞれどの程度の位置関係にあるのか、うまくつ
かめそうで、はっきりしない。もどかしい感じがあります。情報がいただければありがたい。

ゼミのメンバーの自己紹介をしている時にある人が、
浪人したことが自分にとって非常にプラスになった、という話をしてくれました。

その人は、浪人したことで哲学的になった、物をよく考えるようになった。
そして人生についてもよく考えた、と言っていました。

また、浪人生は一つのことに猛烈に集中力を発揮するのに対し、
現役生はまんべくなくこなしていくことができる、
といった違いがあるのではないかと、というようなことを言っていたと思います。

その後”浪人すること”について、話が弾んだのですが、
慶應大学には「現役生、浪人生」の他に、
「英語入学、数学入学、AO、内部進学」など、
違った経路で入学した人が集まっており、
それぞれの立場から、様々な意見が聞けて面白かったと思います。

京都大学方々の”浪人観”ってどのようなものなののでしょうか？
京都大学には内部進学者はいらっしゃいませんよね。
そんなところからお互いの考えを話していくと面白いかもしれませんね。

[28] 予備校という空間パート2

投稿者： ~~XXXXXXXXXX~~ <~~XXXXXXXXXX~~@ip.media.kyoto-u.ac.jp> 99年5月20日16時44分
リンク：

(記事番号#17へのコメント)

浪人についての意見が出されていて面白そうだったので、私も少し自分のくだらない経験談をもって参
加して見たいと思います。

という事で、僕も一浪しています。尾澤さんは、「帰属感から解放された」と書かれていましたが、僕の
場合、その帰属する場所がない事にとてつもない不安を感じました。

中学・高校にしろ大学にしろ或いは会社にしろ、そこに所属しているという事は、その所属先が社会と
有機的につながっているから、ポジティブにそれを認識する事が出来る。ところが予備校という場所は
他の一切と「切れた」存在だから、そこに所属する事に何らの意味も見出せない。つまりそんなところ
に所属している自分自身に意味がない・・・と、浪人時代は沈んでいました。人間て、自分の所属す
る場所によってこんなにも不安になるものか・・・と。

予備校を、次に向かってのステップと割り切れれば、ここまでひねる事も無いんでしょう。

だいたい、進学校から京大や慶応を目指そうという人は、それまでの選択において大きな失敗をしてい
ない場合が多いのではないのでしょうか。そうでなくても、今のご時世、そこまで重大な岐路は受験以外

(前ページの続き)

に無いでしょう。ところが浪人すると、嫌でも現役時代の自分の見通しの甘さに目が行くから、とことんまで自分のあらを探して点検しないといけない。だから、「浪人経験者は物事を深く考えられる」という変な一般論が出来るんでしょう。

あと、うちの予備校は高校のようにクラス編成をして、授業も受けていたので、とても結束力が堅かった。「全員受かるぞーっ！昔の自分たちと同じく考えが甘い現役なんかには合格は渡さんっ！」ってな具合でした。

でも、大学という場所は人それぞれが独自の経験をして変わっていく場所だから、哲学的な奴も思考の深い奴も出てくる。そんな中で年を重ねる毎に、浪人というたかだか一つの経験は、学生に与える差異を小さくしていくのでしょうか。

[47] Re:デスデザインについて

投稿者： ██████████ 99年6月6日3時0分

リンク：

(記事番号#41 へのコメント)

██████████さんは No.41 「Re:デスデザインについて」で書きました。

>1、普段「死」って意識しないものですか？

けっこう側にある。

死ぬっていう行動というか動き自体はかなり近い。

駅のホームで電車が来る時に

いま飛び込むとしぬんだなあと思うし。

そう思うと自殺願望なくてもなんとなく自然に

飛び込みそうでねえ。

だからそこにはわりと無機的なものしかないかな。

だけど死って行動じゃなくて、

死っていう意味のことを考えるとえらく

有機的でぐちゃぐちゃしてそう。

そういう意味みたいなものとしては、わりと普段は遠いかな。

>2、「死」って終わりだと思います？

おわりっていうつもりで生きてる。おれは。

[52] Re:大学生の資格志向について

投稿者： ██████████ <██████████@ma4.seikyou.ne.jp> 99年6月9日14時47分

リンク：

(記事番号#39 へのコメント)

資格志向についてですが、多分、最近特に、就職が難しいのが原因なのではないかと思うわけです。

やっぱり、京大卒という肩書きもかなり有利ですが、京大卒同士で、就職戦争というもの？を勝ち抜くためには、単に、京大卒だけでは、かなり心もとないのではないのでしょうか？

また、学歴偏重といった、ものも、かなり薄れて来ているみたいですし、企業も、「だいがくで、何をして来たか」に重点を置いて来ているのではないのでしょうか？

また、何だかんだといっても、資格を持っていれば、職にあぶれることはすくないでしょうし。

とかくいう、私は、就職するつもりはあまりなく（というより、研究者になりたいので）、資格というものにあまり興味はありません。

しいてあげるならば、TOFEL ぐらいでしょうかね

[53] Re:大学生の資格志向（記事へのコメント）

投稿者： ██████████ <██████████@sfc.keio.ac.jp> 99年6月11日4時18分
リンク：

（記事番号#49 へのコメント）

こんにちは。
井下研究会三年の██████████です。
投稿するのはとても久しぶりに
なってしまいました…。

██████さんの投稿記事、とても興味深く読ませて
いただきました。

先日、文部省が「塾」を教育機関として容認する
という内容の報告書を出しましたが、このような
問題がもはや小学校から始まっていることに、日本の
教育機関を統治する文部省の存在意義を問わずには
いられませんでした。

教育に関してとりわけ興味を持っているほうでは
ないのですが、自分も学生のうちのひとりとして、
このような問題には関わってみたい、あるいは
関わっていかなければならないのかなあと思います。

記事に関連して、僕は中央大学の附属高校に
在籍していたので、なんとなくイメージをつかむ
ことができます。みんな大学に対する帰属意識が
強くて、校歌は中大のものと同じだし、先生の
ほとんどが中大卒業者だし、受験生としては
ほんとに居づらかった。

>皆さんは資格を取りたいと思いますか？

高校が中大の附属ということで、多くのひとが
その頃から司法試験突破を夢みていました。
理由を聞くと、かっこよさそうだからとか、やりがい
がありそうだからとか、たいていはそんな感じでした。

だけど、夢なんて誰だって初めはそのようなもの
だと思います。小学生のうちから法律が大好きで、
それで弁護士になりたいなんてひとはあんまり
いないような気がします。

そういう意味で、資格っていうのはとても取っ付き
易いものなんじゃないかと思います。日本では、
古くはスチュワーデスのドラマが高視聴率をあげれば
スチュワーデスの競争率が、そして弁護士のドラマの
人気が出れば司法試験の競争率が上がるといいます。

やっぱり生きていくうえでは誰しも目的意識を持っていたい。
けれど、この平和で満たされた日本でそういった明確な
ビジョンを持つことは難しいことなのかもしれません。

だから子供のころになんとか抱いた、ある資格への
イメージを、学生になっても持ちつづけるひとが比較的
多いのではないかと思うんです。

●フリートークのページより

[39] Re:クスリ

投稿者： ██████████ <██████████@sa2.so-net.ne.jp> 99年5月20日3時4分
リンク：

(記事番号#36 へのコメント)

██████████さんは No.36 「Re:クスリ」で書きました。

>> リスクを負わないのって、日本人の定義になるんじゃないかしら。

>

>██████████さんも書いたけど、これはどーゆーことですか？

>なにかでっかい事をする時には必ずリスクを背負うものだと思うんですけど。 それにリスクがあるから余計に燃える！

>

ハッキリとどういう事は僕もよくまとめられません。

が、やっぱりそう思うのです。

具体的に、新しいものを作るという事に焦点をあわせます。

もっと具体的に音楽に限定して見ます。

奇を衒った新しいものなんかではなく、新しい視点から感動させてくれるもの。

思いつきますか？

僕は思いつきます。

ただ、その扱われ方から、やっぱり特殊だと思う。

趣味の違いというより、なんかみんな、びびってるってかんじ。

そのびびりを正当化しようとしているように聞こえるのが妙に多く感じる。

最近ちょっとまたでてきた、にほんのラップ。 フォークソング。

みんなは、どう思ってるのかしら？

話題を特殊化しちゃったけど、ま、一例として。

[69] テニス社会学

投稿者： ██████████ <██████████@sfc.keio.ac.jp> 99年6月9日18時18分
リンク：

ちょっと遅れましたが、フレンチ、見ましたか？

すごかったですね、グラフ対ヒンギス。

スライスの真の力を見せてもらいました。

低く、速く、深く……すごい！

最近、「スライスはダメだ、これからはスピンド」

っていう論調が主流ですよ。

女子はほとんど両手だし、

男子でも若い世代はどんどん両手が増える。

スライスって、パスに使いにくいし、

一発で決める力がないし、

ダブルスではポーチにかかりやすいから、

そういった世間の流れとともに、

スライスプレイヤーの自分はちょっとせつなく思っていました。

でも、一発で決めない分、相手を走らせるし、

低いバウンドのボールは、相手から攻められにくい。

深いボールは相手をベースラインに釘付けにして、

自分の戻る時間も稼げる。

あまり人が気付かないところに、

(前ページの続き)
スライスの素晴らしさが隠されているんですね。
グラフはそれに気付かせてくれました。

テニスの論じればこういうことですが、
これを一般論に応用すれば、
「世間的な評価やパッと見て分かる部分が、必ずしも全てではない」
ということになるのでしょうか……？

なんだかんだ言って、テニスのお話をしたいんです。

おーい、テニス好きやーい!?

[78] ゲーム (マルチゲーム)

投稿者: ██████████ <████████@ma4.seikyuu.ne.jp> 99年6月10日12時43分
リンク :

マルチゲームってなんじゃらほい?
ですが、
人生ゲームとか、多人数でやるゲームで、
一般的に勝ち負けがあるゲームです。

これも面白いのですが、基本的に、戦略というものが、
たいていあって、それを練るのが面白いんですよ～
いつ勝負にでるのか?
誰が信頼?できるのか?
誰が、なにをしようとしているのか?
とかいろいろ考えるわけですよ。
そうした上で、対策を立てる。
まあ人生ゲームでは、あんまりそういうのがなくて、
ランダム性に依存しているのがつらいところですが、
モノポリーなどは、ランダム性がややあるのですが、
戦略という要素も結構ありますね。そっちの方が
僕は好きですね。

ところで、マルチゲームの盛んな国は、ドイツなのですが、
ドイツのマルチゲームは結構ではなくたいへん面白いのがたくさんあり
「バサリ」「エルフェンランド」などが、だいひょうでしょうか。
これらは戦略性が非常に重視されており、かなり面白いものです。
まあ、マルチゲームの紹介まで。

[87] Re:身振り手振りと、擬態語 擬音語

投稿者: ██████████ <████████@sfc.keio.ac.jp> 99年6月12日3時35分
リンク :

(記事番号#86 へのコメント)

えーっと、タイトルとはちょっとずれてるのかなあ？とびびりつつ。

身振り手振りだけじゃなく、口調や話し方に含まれている情報もすごく多いと思いませんか？
うちは特に、変なところで人を誉めたりするので、人を何人も通して相手に伝わると悪口を言ってたっ
てことになっちゃったりするんですよ。けど、ちゃんと会って話していたら、いい意味で言ってるんだ
な、って言うのはなんとなく相手に伝わるんですよ。
メールを使うようになってひしひしと、直接会ってはなすことの大切さを感じます。言葉だけで伝えら
れる情報って意外と少ない。知識は伝わっても、感情は伝わりにくいなあ、みたいな。

って単に表現力が足りないだけ(^^;)？

なんてね。けどやっぱりコミュニケーションって言葉でしてるものじゃなくて雰囲気してるものじゃ
ないかなあって思います。

書き言葉でも雰囲気の出る文面を創ろうと努力努力。

京大の人たちと実際に会って話せるの、楽しみにしています。

きっとBBS上とは印象違うよね。

[186] Re:面白い! 難しい!

投稿者: 遅刻魔・████████ 99年6月29日19時16分
リンク :

(記事番号#85 へのコメント)

このテの勉強会。

ええっと、やりたいな、っと思っています。

もうすぐ試験シーズンですよねえ。
それが終わったら、ごくこじんまりした形でやりたいと思います。
融通をもたせるために、3~6人くらいで、出入り自由の勉強会。
はじめは、知識のストックがないので、
参加者間で、ちょっとハードな課題を出して、
話し合うのに最小限の知識が貯まったら、
今度は話しながらも、知識面での課題は出しつつ、
って感じの。

やれるかどうか、分かりませんが、
ひよっとしたら私はしないかもしれませんが、
興味のある方、私にモノ申したい方、
ただ単にダジャレをかましたい方、
自分はUFOに誘拐されそうになったとかいう方、
いっしょに勉強会を考えてくれる方、
声をかけてください。

●合同合宿企画ページより

[15] SFCに行くかどうかプラスアルファ

投稿者： ██████████ <██████████@ip.media.kyoto-u.ac.jp> 99年5月20日15時58分
リンク：

先日、井下ゼミから提案のありましたSFC見学について、京大で意見がまとまりましたので、報告致します。
結論から端的に言いますと、SFCには行かない、ということになりました。

結論に至るまでの経緯は以下のようなものでした。

まず、単純にSFCに行きたいかどうかを訊ねたところ、7割くらいのひとは「行きたい」と答えました。そのままだとすんなり決定したのですが、「行きたくない」と答えた人の意見を聞くことにし、そこから議論をしてみると、次のような意見が出てきました。

*慶応の人たちは別に京大を見学するわけではない。という事は、合宿をするに当たって、それが双方に等しく影響を与えるものではない。

*向こうに行って何が出来るかはっきりしないのに、行くかどうかだけ決める事は出来ない。

*京大側は合宿までに十分な時間を確保できていない。ならば、見学に時間を費やすより、先に宿舎に行って何らかの活動をするほうが、合宿を考えると有意義ではないか。

見学賛成派の人たちは、「向こうから提案が会ったのだし、せっかくだから行ってみようか」というように捉えていた人が多かったらしく、一度反対派の意見を聞いてからは上のような意見がたくさん出され、結果的には大差で「行かない」事が承認されました。

せっかくの井下ゼミからの提案ですが、以上のような理由から、見学は辞退させていただく事になりました。

さて、SFCに行かなかった場合、かなりの時間が空くわけですが、ラフォーレ修善寺のチェックインの時間は何時からなのでしょうか。

時間を上手く活用するためにぜひ確認しておきたい事ですので、宿舎の情報に詳しい方は、ぜひご一報を掲示板までお願いします。

#京大の人へ

一応要点をかいつまんで書いたつもりですが、上の議論の経過報告を見て、「それ俺の言うた事とちゃうで」とか、「私の意見が書いてない！」などの不都合がありましたら、フォローをお願いします。

[29] 合宿の企画について

投稿者： ██████████ <██████████@sfc.keio.ac.jp> 99年6月2日16時11分
リンク：

はじめまして。

井下研究会の ██████████ といいいます。

KKJの合宿の企画について、京都大学のみなさんをお願いしたいことがあって井下研究会を代表して書き込んでいます。

井下研究会では、昨日の研究会でKKJ合宿についての特別企画会議が行われました。そしてとりあえず私たち井下研側で「合宿の枠組み」を作ることになりました。だから具体的なディスカッションの内容とか合宿の意義とかそんなのについてはまた別にお互いに議論を重ねていきましょう。

そこでとりあえず決まった枠組みとしては、

(前ページの続き)

初日 : 到着→『自己紹介&交流』→セッション1→夕食→セッション2
2日目 : 朝食→セッション3→昼食→『レクリエーション』→セッション4→夕食
3日目 : 朝食→セッション5→解散

このような流れになりそうです。もちろんこれは暫定案にすぎませんが…。
私たち井下研究会では、到着後の自己紹介と交流の企画を立てることになりました。
私たちの出会いの場を演出して、その後のコミュニケーションがスムーズになる
きっかけとなるような企画を目下私たちは考え中です。また決まり次第皆さんに
この場でお伝えしたいと思います。

そして、2日目のお昼のレクリエーションの企画を京大の皆さんにできれば立てて
いただきたいのですがいかがでしょうか？どんな内容でもいいし、時間についても
特にこだわりません。よろしくお願いします。「そんな面倒くさーていやじゃー」
(これは何弁!?)ということでもいいので、何かお返事をいただければ幸いです。

それではよろしくお願いします。

慶應大学 SFC 井下研究会 ~~XXXXXXXXXX~~

[39] Re:合宿の企画について

投稿者 : ~~XXXXXXXXXX~~ <~~XXXXXXXXXX~~@ip.mediakyoto-u.ac.jp> 99年6月4日17時58分
リンク :

(記事番号#38 へのコメント)

合宿係の~~XXXXXXXXXX~~です。

>>私たち井下研究会では、到着後の自己紹介と交流の企画を立てることになりました。
>>私たちの出会いの場を演出して、その後のコミュニケーションがスムーズになる
>>きっかけとなるような企画を目下私たちは考え中です。また決まり次第皆さんに
>>この場でお伝えしたいと思います。
>なんか、主導権を握られてるみたいで悔しいですね。
>慶応側の企画にのっかって行くのではなくもう少し合宿を一緒に作って行くようにできたら良かったな
と思います。
>でも、ちょくちょくあった提案に反応してこなかった私たちにもせきにならがあるんでしょうが。

いやいや責任はおおありだと思う。
一週間に一回しか会えない、一緒に場を作る意味・必然性を創り出さねばならない、
というような僕らのゼミの性格を考慮に入れても、反応があまりに無さ過ぎた。
僕は個人的に猛烈に反省してます。

>>そして、2日目のお昼のレクリエーションの企画を京大の皆さんにできれば立てて
>>いただきたいのですがいかがでしょうか？どんな内容でもいいし、時間についても
>>特にこだわりません。よろしくお願いします。
>これはやっぱり、ボディワークをしたいという気持ちが暗に潜んでいるのでしょうか。いまのところ
レクリエーションについてはボディワークしか思い付かないんですが。だれか、思いついた人よろし
く。
>そうでなかったら、大山先生よろしく。

さっきの続きになるけれど、上記のような性格の集まりだったからこそ
僕らにはボディワークがうけたんじゃなかるうか。
「何かうまくいってる」という感じに浮かれ過ぎていたようだ。

だからレクリエーションでボディワークをするにしろしないにしろ、
レクリエーションの役割をしっかり考えたい。
意見求む!!

[53] フリーテーマ

投稿者： ██████████ 99年6月11日15時44分
リンク：

この前の授業で出た、みんなの関心のあるテーマについて
紹介します。
順不同です。

「大学生の資格（ダブルスクールとかとの関連だと思う。ちがってたらごめん）」
「学問同士の連関」「異文化の価値観を1人の中に共有できるか」
「社会現象とゲームの変遷」「ジェスチャー、擬音語、擬態語」
「コミュニケーションの基盤～愛～」 「文化全般」
「西洋のパワフルさ」「生きる意味」
「コミュニケーションの限界 障害者のコミュニケーション」
「大学に対する帰属意識」「合コン必勝法」
「言葉はどのようにして笑いに変わるか」
「初対面における本音と建前」「宗教と科学」
「コミュニケーションにおける身体生の弊害」
「男女間に友情はあるのか」「田舎と都会」
「本音と親友」「お笑い」「東京と方言」
「ネットワーク上で遠距離恋愛は成立するか」
「大衆化（受験・芸術）」
「高学歴者のコンプレックス」「般教の必要性」

みなさん、他にも話したいテーマがあったらどんどん
書き込みましょう。
このうちのいくつかは、フリートークの場を出したら、
合宿当日盛り上がるかも。

[74] 京大の方々へ

投稿者： ██████████ <██████████@sfc.keio.ac.jp> 99年6月16日2時41分
リンク：

本日、井下研究会では合宿前の最後の授業として、セッション
内容に関するまとめの議論がなされました。明日の京大の
授業でも以下のことを是非参考としていただきたいと思います。
(詳しい経緯に関しては今日の授業概要を参照願います。)

議論の内容としては、京大側の意見を土台として、それに
意見を付け足していくというかたちです。

◎合宿テーマ「コミュニケーションについて」

◎セッション内容について

京大側の「慶応側に主導権を握られているのでは」という考えを払拭したい。
統一性を持たせなければ話が進んでいけないという葛藤がある。

⇔ しかし

せっかく京大の学生と話し合う機会を与えられるわけだから、そこで
しか得られないテーマについて話し合いたい。そのように考えると、
慶大と京大の挙げた共通すると思われるテーマ
「メディアと実像」や「教育と文化（大学と私）」を取り扱って
みるのはどうかという意見でまとまりました。

そこでまた、新たに京大の方々への提案です。

(前ページの続き)

くくセッション0(ゼロ)を新たに設け、ここでセッション全体の
コンセンサスを大まかに決める機会を与えてみてはどうか。
セッション0では、セッション1における司会者・タイムキーパー
等の役割分担について決めることも考えられます。(この場合、
時間としては14:00~が挙げられました。) >>

また、グループの人数に関して、京大、慶大の数はそれぞれ
4人、3人ということでしたが、その場合グループ数が多すぎる
ことにより、話し合う時間も少なくなります。内容の充実度を
考えると、計8人4グループのほうがいいのではないかと
私達は考えました。

フォローの記事も参照ください。

[73] Re:名刺について

投稿者: ██████████ 99年6月15日21時59分
リンク:

(記事番号#67へのコメント)

こんにちは。SFC 井下研究会の██████████です。

合宿で予定されている名刺交換会について、ちゃんと説明しておきますね。
遅くなってごめんなさい。(パンフレット用の情報です!)

京大と慶大の出会いを演出する企画として、私たち慶大から提案する企画が
『名刺交換会』です。

始めて出会う者同士が、一枚の紙切れの交換をきっかけにお互いを知っていく…。
それが名刺交換会です。名刺は、私たちの関係をスタートさせるきっかけとなる
小道具です。だからあなたの名刺はもう正に何でもあり!「あなたを表現するもの」
だと考えて、あなたらしい名刺を(最低)30枚用意してきて下さい。お願いします。

この名刺交換会のルールはただひとつ、「知らない人全員と名刺を交換すること」
です。でも罰ゲームはないのでご安心を…。時間はだいたい1時間。心地よい音楽の
流れる広い空間に皆で一同に集って、わいわいがやがや自由に名刺を交換しましょう。

実はこの名刺交換会は、慶應大学SFCの一般教養科目である「対人コミュニケーション
論」(我らの井下理君が担当されている授業です)の最初の授業でも行われている
ものなんです。だから京大の皆さん、SFCの授業をちょっと体験するつもりでこの名刺
交換会を楽しんでくださいね。